

モアイは語る 「地球に関する筆者の意見」をどう読んだか

a 主張内容について

文明の繁栄は森によって支えられている。森林資源が枯渇してしまうと、食料を作ることが困難となるからだ。

人口増加が続く現代、限りある農耕地を耕し尽くしてしまえば、食糧不足の恒常化は免れない。そうならないためにも、食料生産の技術革新が必要である。

地球に住む私たちは、有限の資源を効率よく、長期的に利用する方策を考えなければならぬ。それが、人類の生き延びる道なのである。

鎌 葉月さん

日本列島の文明が長く続いたのは、森で覆われていることが深く関わり、地球も森に支えられてきた。森林は文明を守る生命線なのだ。現代の私たちは、異常な人口爆発の中で生きている。地球は半世紀もたないうちに、人口が二倍にもなった。イースター島は、百年に二倍だから、その異常さが分かる。このまま人口が増加し、八十億を超えたとき、農耕地をどれだけ耕しても生活していくための食料や資源は足りない。イースター島は、森林資源が枯渇したため、滅亡した。地球も同じだ。そうならぬよう、資源を有効活用しなければならぬ。それが人類の生き延びる道なのである。

近藤瑠華さん

地球は今、人口爆発や文明を守る生命線である森林の破壊という問題を抱えている。このままでは、イースター島と同じ道をたどり、食糧不足や森林資源の枯渇が恒常化した後、地球は滅びるだろう。イースター島と同じように外部からの助けが期待できない今、私たちは今ある有限の資源を最大限に活用する方策を考えるべきだ。それが人類の生き延びる道である。

後藤紗里那さん

b 主張の方法にも関わって

筆者は、イースター島や日本・地球のことを、わざと少し大げさに書いて、深刻さを出していると思う。現在の様子よりも大げさに書くことで、読者がそれを読んだとき、このままではいけない、と思えるようにするためだと思う。簡単な言葉ではなく、「恒常化」や「漆黑」という難しい言葉を使うのも、地球の危機感を出すために工夫したからだと思う。

浅野仁美さん

作者は、言葉をあえて難しくして表現している。例えば、「恒常化」「枯渇」「飢餓地獄」など、一般では、そんなに使わない言葉で表現されている。読者に普通に伝えやすい言葉で伝えればいいのに、あえて難しい言葉を使っている。こんなに難しい言葉を使うのは、簡単に読んでもらえるよりも、難しい言葉の方が読者には深く感じられるから、僕たち中学二年生に地球の危機について理解してほしいからだと考えられる。このようなことから、作者は、読者に地球について深く考えて、生き延びる道を考えて地球を救ってほしいという願いもあるんだなあと思った。

松波寛人さん

筆者は、イースター島での悲劇を、この現在の地球でも起こらせないという強い思いで述べている。イースター島の住民の絶望的な気持ち、先に光が見えない気持ち、悪いイメージの言葉を選び抜いて書いている。イースター島と地球をいろいろ共通点（人口増加・森林資源の不足・農耕地の限界等）でつないで、現在の地球に危機や危険性を伝え、人類がこれからもずっと生き延びる道を歩み続けられることをモアイを通して訴えている。

金谷祐太さん

筆者は、飢餓に直面し、文明までもが崩壊してしまったイースター島を例にして、世界が危機的状況に置かれていることを伝えようとしている。森によって支えられていること、異常な人口爆発が起きていることなどを共通点とし、イースター島と同じ道をいざれ通つていかなければならないであろうと考えていることが分かる。それを踏まえて、いかに今が細々とした道を通っているのか、生き延びる道はなんなのかを私たちに伝えようとしている。

岩田結季乃さん

筆者は、イースター島の研究をこれからの地球につなげて考えている。十七段落では、森林を「文明を守る生命線」と表している。また、森林の消滅が文明の崩壊につながっていることを伝えたいのだと思った。また、その他の段落でも、「異常な」や「限界」「飢餓地獄」などのように、ただ読者に読んでもらえたらいいという書き方ではない。今の地球が本当に大変な状態にあることを知ってもらいたかったから、イースター島と比較する書き方をしたのだと思う。

小川祐季菜さん